

「陸・海・空の交通運輸を支える」

担当教員名 北川 徹哉

1 コースの概要

日 程	2013年9月2日～5日
場 所	東京都、神奈川県
参加人数	19名

2 コースの目的

人の生活、社会、経済の基盤である陸上、海上、空の交通運輸は常に正常かつ安全に運行することを強いられる上、近年は環境問題への対応も求められています。これらの交通運輸システムを支えるために、製造、維持管理、施設保守などの業務は極めて重要な役割を担っており、本コースの目的はそれらの現場を知ることです。

3 事前学習

自己紹介とグループ分けを行い、視察先と訪問スケジュールならびに注意事項を確認しました。また、グループごとに視察先についての事前調査を行い、予備知識を得ました。

4 行程 (内容)

航空機を健全な状態に保ち、人の命を守るメンテナンス業務の重責は計り知れません。ANA メンテナンスセンターは、航空各社の重要施設が建ちならぶ羽田空港の一画にあります。エレベーターを出るとそこは巨大なドックであり、すぐ外の滑走路を航空機が轟音とともに離発着しています。その日は2機の B787がドックに格納されていました。環境問題対応や燃料効率向上のため、機体の軽量化とサイズダウンが近年の流れであり、B787はそのフラッグシップです。重厚な整備用足場が機体を取り囲み、ジェットエンジンが分解整備されているなど迫力満点でした。整備士は自分専用の工具をもち、一つでも不足した場合は見つかるまで仕事を終えることができません。機体の内部に工具類を残してしまうと、甚大な事故につながるからです。また、参加者が特に関心をもったのは、航空関連業務の書類の多くが英語で書かれており、やはり英語ができる人材が採用されやすいことでした。

日産自動車株式会社・追浜工場は東京ドーム37個ぶんの広大な敷地を有し、性能テストコースや専用埠頭

などもあります。工場内では様々な音により会話が困難なため、無線ヘッドセットを使って説明していただきました。部品搬送ロボットが動き回り、数種のガソリンエンジン車だけでなく電気自動車“リーフ”も同一のラインで製造（混流ライン製造）されていたのは圧巻でした。なお、撮影等が一切禁じられているのは自動車業界の厳しい競争を物語っていました。

竹芝小型船ターミナルより“新東京丸”に乗船し、東京港の施設を海から案内していただきました。新東京丸は東京都港湾局が所有する視察船であり、世界各国の要人を案内するときにも使用されます。船内は立派な海上会議室であり、東京港の歴史や施設さらにはゴミ処理・埋立までも、わかりやすい解説により勉強することができました。我が国は海洋国家であり、海上物流とそれを支える港湾設備が高度に発達してきたことを改めて実感した、東京港一周の船旅でした。

5 事後学習

パワーポイントを用い、グループごとに視察内容ならびに企業研究の結果を発表し、このコースを取りまとめました。



ボーイング787のジェットエンジンの前で



竹芝小型船ターミナルにて新東京丸の前で